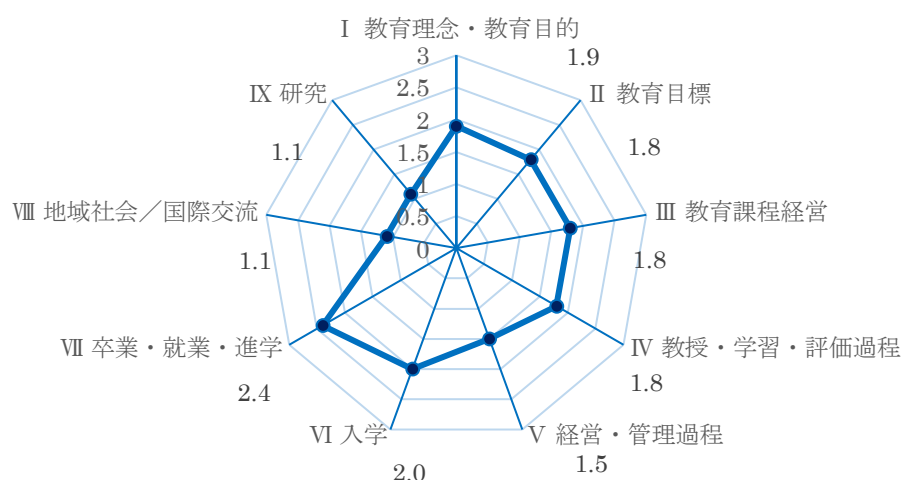


## 令和2年度 学校自己評価・自己点検 看護科



### 令和2年度評価の概要と今後の課題

#### I. 教育理念・教育目的

理念や目的は学則に明記し、育成人材像や卒業時の到達目標は入学説明会の時に説明して学生便覧に示している。新型コロナウイルスの影響によって入学時オリエンテーションが入学当初にできなかったが、6月の分散登校時に学校全体の教育計画、学習内容、順序性を説明した。カリキュラム改正に向けて、現行のカリキュラムを見直し教育理念や教育目的の共通認識を図っている。そこで、現行カリキュラム評価を実施した結果、評価項目が教育目的、教育成果と統一化していないことが分かった。入学してくる学生の様子からどんな教育方法を用いると効果的か、教育方法の検討も行っていきたい。新カリキュラム編成に向けては、教育方針が学生の学修成果の目標となるように取り組んでいきたい。

#### II. 教育目標

年度初め教務会議で学校評価内容の説明を周知し、今年度の目標を策定し各学年教育目標に即した目標を挙げている。しかし、新型コロナウイルスによる授業及び実習への影響があった。在宅課題学習やオンライン授業を導入し、学習目標の達成には講義資料の郵送や実習目的に沿ったスケジュール、週案・日案、演習課題を明記した資料の配布説明を行った。実習施設との調整を重ね、学内実習 42%、臨地実習 58%を実施し全員が単位修得できた。学生の目標管理に対しては各学年の目標を説明し目標管理シートに自己目標を設定後、主体性をもって学ぶ態度を育成した。その後中間と最終で自己評価を実施し単位修得や実践能力の習得につながっている。

#### III. 教育課程経営

新型コロナウイルス感染拡大防止措置のために、教育方法やカリキュラム変更を実施しオンライン授業や学内実習に取り組んだ。教育活動や学内行事などが中止となり学生間や教員との関係性が図れないため、コミュニケーションツールとしてラインやチャットを活用した。実習では、新たに実習施設を開拓し、コロナウイルス感染対策を講じオンラインでのオリエンテーションや反省会を実施できた。その結果、実践の場での情報収集や技術取得ができた。コロナ禍のなかで、カリキュラムの進捗の変更が生じたので学生の学びの

成果に影響の出ることを懸念したが、卒業生の授業内容満足度は56%（昨年53%）の回答であった。令和2年度は臨時休校や自宅学習が続き、卒業前にアンケート調査を終えていた3年生の意見を中心に反映した。

#### IV. 教授・学習・評価過程

授業計画が作成され、教育課程との整合性を図り、学生が授業内容を理解できるようにシラバスを作成している。学外講師とも調整を図り、学習の順序性や演習のタイミングなど考慮している。授業アンケートは、前年度の評価結果を参考に、各領域担当で授業案を作成している。また、実施結果や学生の反応を踏まえて見直しをしている。しかし、新型コロナウイルス感染の影響を受けカリキュラムの進度に遅れや授業方法の変更、土曜日の出校、夏休みの短縮を行い単位修得ができた。学生の面接はオンラインで実施、学科試験不合格の学生に対しては学習方法の支援を実施した。

国家試験対策としては市販の模擬試験、教務の模擬試験やグループ学習等感染対策を講じて実施し、国家試験前日のアカデミーの講義を受講して国家試験に臨んだ。

学習成果の資格・免許の取得率として、看護師国家試験結果

合格率

【本校】100% 37名(新卒) 1名(既卒) 合格

【全国】90.4%

#### V. 経営・管理過程

今年度は感染防止対策のため運営会議（年4回）、講師会と実習指導者会（年2回）等の開催回数が減少したため、学生の教育で差が生じないようにフォローした。会議決定事項等で取り組む目的の理解やスケジュール等を文書化した。また、学校評価を組織的に実施し、評価結果をもとに改善計画を策定している。学校評価の結果はホームページに公表している。各教員へのIT、リテラシーの周知徹底と安定した情報システムの管理を行っている。専門職として技術を磨くための設備や機器も完備している。オンライン環境の整備、ICT教育の機器、図書室も整備しており、学生の学習意欲を喚起している。防災に関する組織体制を整備し、防災マニュアルブックを作成し配布している。今後は、人材育成と共に働きやすい環境づくりの促進を図るとともに、受験者数の確保や事業計画に基づいた学校運営に力を入れていきたい。

#### VI. 入学

学生の確保については、ホームページの充実、ポスター掲示、各施設への募集リーフレット掲示等、新型コロナウイルス感染防止措置を講じ実施した。また入学試験の規定を一部変更（試験科目から国語を削除）して受験生の定員を充足できた。今後も入学者選抜方法の妥当性の検討や在校生の分析を行っていく。

オープンキャンパスをオンラインで開催し、近隣の准看の学校については受験の情報交換を行いながら、「選ばれる学校づくり」にむけて、本校の「価値」をアピールできる取り組みを行っていく。

#### VII. 卒業・就業・進学

卒業生の卒業前アンケートから分析した結果、今年度の卒業生学校満足度は56%と昨年

(53%) よりやや高かった。卒業時の到達状況等を考慮した分析結果を今後に活用する。卒業生の進路は希望施設へ 100%就職、その内県内への就職は 59%で、地元への就職率の高さは本校の特徴であり、教育理念で示す地域医療への貢献が実践できている。学生指導に関しては、地域を担う大切な存在として大切に向き合い、休学・退学を出さないきめ細やかな指導方針で教員も日々学生に寄り添い、成長を支援している。卒業生の就職後の評価は就職先との情報交換で把握し、卒業生にはホームカミングデイで状況を聞いていたが今年には実施できなかった。

## VIII. 地域社会／国際交流

学生と教員は地域社会のニーズを把握する目的と看護教育活動の一貫として、年 1 回行政の地域健康促進活動や夏祭りの総踊りに参加については実施できなかった。海外からの看護師留学生を受け入れ、国家試験受験対策の模擬試験やグループ学習を一緒に学んでいる。今年から国際的視野を広げるため、非常勤講師に国際看護活動経験者を迎え教育内容の充実を図っている。地域社会への対応は、専門学校である本校がどのように地域を捉えるかを改めて概念整理をする必要がある。カリキュラム改正の趣旨を踏まえ専門学校でできること、強みとなることを考え整備する予定である。

## IX. 研究

学生は 1 年次自由研究、2 年次看護研究、3 年次ケーススタディなどに取り組み看護研究の素地を養っている。今年には教員の学会発表の取り組み、学生の学会への参加はできなかった。しかし、新カリキュラム改正に向けて、学内実習や Zoom 授業に関するオンライン研修などの教育活動に活かすセミナーを学内で受講できた。コロナ禍で 3 年生のケース発表はポスター掲示となったが、各学年の研究活動を指導することで教員の研究に対する姿勢が高まっている。

### 令和 3 年度目標

1. 学生の学力の把握と学習への意義づけに努め、高いレベルでの国家資格取得を目指す。
2. 学生減少に備えた学生確保対策の充実に努める。
3. 学生生活の充実をはかるとともに、健康管理や豊かな心を育む取り組みを実践する。